

# 扶桑町ソフトバレーボール大会

## ルールブック

扶桑町教育委員会

# ＜ソフトバレー主な規則＞

## ○試合前

トス → 公式練習（2分間） → 整列 → 一礼 etc…

## ○サービス

- ・守備位置・・・・・・・・サービスの時だけ維持する。  
相手からサービス権が移動してきた場合は、時計回りへ一つ移動。
- ・サーバー・・・・・・・・後衛右がサーバー  
ボールを持ち手から離して打つ。  
ネットに触れて入った場合はフォルト → 相手に1点

## ○プレー

- ・1回目の接触は2ヶ所に当たってもよい。ただし、その接触はひとつの動作中のものに限られる。
- ・からだのどこに当たってもよい。
- ・ホールディング(\*1)・ドリブル(\*2)禁止
- ・ブロックをのぞいて3回以内のプレーが許される。
- ・ネットにボールがかかった場合も3回で返す。（かけた人が続けてプレーできない）
- ・オーバーネット禁止
- ・インプレー中のタッチネット禁止。

\*1 ホールディング…一定時間以上ボールを保持すること

\*2 ドリブル…一定時間以上の差があって二度続けてボールに触れること

## ○勝敗

- ・1セット15点のラリーポイント制。3セットマッチ。  
14：14 デュースとし、2点差がつくまで行う。17点先取。

## ○試合球

- ・（財）日本バレーボール協会制定のソフトバレーボール（ゴム製、重さ210±5g、円周78±1cm）を使用する。

# ソフトバレーボール扶桑町ルール

## ソフトバレーボールとは

2つのチーム（1チーム4人）が定められたコート（バドミントン ダブルス用）で、ネット越しにソフトバレーボールを打ち合い、定められた点数（1セット15点）を早く得点する競技です。手軽にでき、突き指の心配がなく、しかも奥行きが深いので多様な楽しみができます。

## I 施設と用具

### 1 コート

コートは13.40m×6.10m（バドミントンのダブルス・シングルス兼用コートの外側のラインを使用）の長方形の平面

### 2 ネット

- ① ネットは、バドミントン用ネット、または（財）日本バレーボール協会制定ソフトバレーボール用ネットを使用する。アンテナは、ネット上端から1.00m上方に出るように、1個ずつ支柱の外側に取り付ける。
- ② ネットの高さは、2.00mとする。

### 3 ボール

ボールは（財）日本バレーボール協会制定のソフトバレーボール（ゴム製、重さ210±5g、円周78±1cm）を使用する。

## II 競技者

- 1 競技者はすべて4名で行う。ただし、登録は7名までとする。（男女混成は可）種別・編成内容はその都度決めるものとする。
- 2 競技者のユニフォームはとくに規定しないが、運動のできる服装とする。
- 3 チームキャプテンは、所定の章をつける。

## III 審判

審判は各チームからの相互審判で行う。

（主審1名、副審1名、記録員1名、線審2名、点示員1名の計6名。）

## IV 試合の進行

### 1 競技の中断

#### ① タイム・アウト

各チームは、1セットにつき2回のタイム・アウトが認められる。このタイム・アウトは1回につき30秒とする。

#### ② 選手の交代

各セットの選手交代は、適宜行うものとする。

#### ③ 要求の方法

タイム・アウトおよび選手交代は、ボールがデッドのとき、主審に申し出る。

### 2 コートの交替

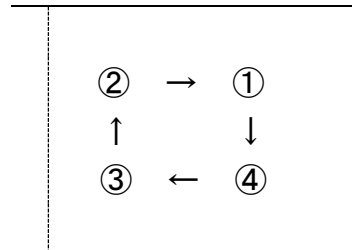
各セットごとにコートを交替する。最終セット（1対1の後の第3セット）は、いずれかのチームが8点になった時点で交代する。ただし、促進ルールを適用した場合は交替しない。

### 3 選手の位置とローテーション

① サービスが打たれる瞬間には、両チームはサーバーを除いて、2人ずつ2列に並んで各自のコート内に位置しなければならない。

② サービス権を得たチームは図のように時計の針と同じ方向へ選手の位置を一つずつ移動する。

③ サービスが打たれた後は、どのように移動してもよく、ポジションによるプレーの制限はない。



## V 得点および勝敗

1 1セット15点のラリー・ポイント制で3セットマッチとする。（14対14のときはデュースとし、2点差がつくまで行う。ただし、17点で打切り、17点を先取したチームを勝者とする。）

## VI プレー上の動作と反則

### 1 プレー上の動作

#### ① サービス

ア サービスは1回とする。

イ サービスは、エンド・ライン後方のフリー・ゾーンから、足がラインに触れずに、または味方コートに踏み込まずに打つ。

ウ サービスは、相手チームにサービス権が移行するまで、同じ競技者が続けて打たなければならない。

② アタック・ヒット

4人の競技者は、どの位置にいるときでも、ボールを打った瞬間にボールの一部または全部が味方コート上の空間にあれば、どんな高さのアタック・ヒットでも行うことができる。

③ ブロック

4人の競技者は、どの位置にいるときでも、相手のアタック・ヒットの後、ブロックすることができる。ただし、オーバー・ネットは許されない。

④ 同時の接触

同一チームの2人の競技者が同時にボールに触れたときは、1回触れたものとみなす。この場合、いずれも引き続いてそのボールに触れることができる。

## 2 プレー上の反則

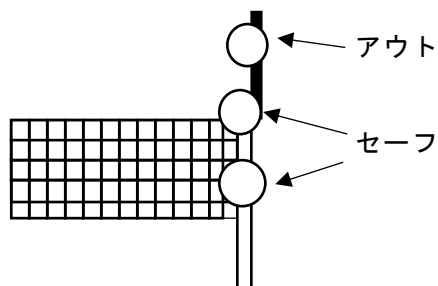
次のプレーがあったときは反則となり、相手チームに1点が与えられる。

- ① ネットを越えて相手方コートに打ち返すために、ボールへの接触回数がブロックを除いて最大限3回を越えたとき（オーバー・タイムス）。ただし、ブロック後の1回目の接触は、ブロックのとき、ボールに触れた選手も含んで、誰にでも許される。
- ② ボール接触中、明らかにボールが止まるようなプレーがあったとき（ホールディング）。
- ③ ネットによって分けられた相手方コート上のボールに触れたとき（オーバーネット）。
- ④ イン・プレー中にネットに触れたとき（タッチ・ネット）。  
ただし、相手側の打球によりネットが膨らんでネット触れたときは、タッチ・ネットにはならない。
- ⑤ 明らかに同一競技者が、2度続けてボールに触れたとき（ドリブル）。ただし、チームの第1回目の接触は、身体の2か所以上に連続して当たってもよい（その接触は、一つの動作中のものに限る。）。
- ⑥ サービスされたボールをネット上端より上方からアタック・ヒットもしくはブロックすること
- ⑦ サービスの打球時に、エンド・ラインに足が触れたり、味方コートに入ったとき（フット・フォールト）。
- ⑧ サービスが打たれた瞬間に、それぞれの競技者が正規のポジションに位置していないとき（アウト・ポジション）。
- ⑨ センター・ラインを完全に踏み越したり（パッシング・ザ・センター・ライン）、ネット下から相手のプレーを妨害したとき（インターフェア）。
- ⑩ サービス・ボールがネットに触れるか、相手チームの競技者に触れずに相手コートの外に落ちたとき（サービス・フォールト）。
- ⑪ ボールが、コート区画線の完全な外側の床に落下するか、またはコート外の物体に触れたとき（アウト・ボール）。
- ⑫ ボールがアンテナに触れたとき（アウト・ボール）。  
ただし、アンテナとネットに同時に触れた場合を除く。

- ⑬ ボールが、支柱とコート面に同時に触れたとき（アウト・ボール）。

次のようなボールの支柱、ネット、アンテナ等への接触は、生きたボールとしてプレーを続けることができる。

- ① ネット上端（200cm）の水平帯以下の支柱に触れた場合  
② ネットとアンテナに同時に触れた場合



- ⑭ ボールが2本のアンテナ、またはその想像延長線の間を通過しなかったとき（アウト・ボール）。
- ⑮ ボールが、ネットを通過して相手コートに入ったとき（アウト・ボール）。
- ⑯ 次のような不当な要求をして一度警告を受けたチームが、同じセットで、これらの不当な要求を繰り返し行った場合
- ア ラリー中、またはサービス許可と同時に、その吹笛後に、タイム・アウトまたは選手交代を要求したとき。
- イ 要求する権利のない者がタイム・アウトまたは選手交代の要求をしたとき。
- ウ 同じチームが、競技の再開を待たず連続して選手交代の要求をしたとき。
- エ タイム・アウトの許容回数を超えて要求したとき。

## Ⅶ 役員

役員は各担当コートを責任を持って運営すること。

## Ⅷ その他

この競技規則に記載されていない事項については、（財）日本バレーボール協会制定の6人制バレーボール競技規則に準ずる。

## 附 則

- ・ この規則は、平成 4 年 1 月 2 2 日から施行する。
- ・ この規則は、平成 4 年 5 月 1 3 日一部改正し施行。
- ・ この規則は、平成 5 年 1 月 2 0 日一部改正し施行。
- ・ この規則は、平成 8 年 2 月 2 1 日一部改正し施行。
- ・ この規則は、平成 2 0 年 1 月 2 3 日一部改正し施行。
- ・ この規則は、平成 2 3 年 2 月 1 6 日一部改正し施行。

扶桑町スポーツ推進委員会